

ピアノ調律師より

オトノトビヲ

音の扉

vol.6

巻頭
特集

ピアノのヒミツ!

「アップライトピアノ」と「グランドピアノ」

特別寄稿

創造性溢れるピアノ開発に寄せて

ピアニスト 川口 成彦

2 **特集** **ピアノのヒミツ!**
「アップライトピアノ」と「グランドピアノ」

6 **特別寄稿** **創造性溢れるピアノ開発に寄せて**
ピアニスト 川口 成彦

9 **寄稿** **日本製ピアノの歴史**
㈱河合楽器製作所 SKピアノ研究所 三浦広彦

12 **歴史的ピアノ探訪** **その5**
日本ピアノ調律師協会／中部支部 伊東基貴

16 **あいち国際女性映画祭** **ピアノの魂**
海外招待作品

18 **お元気ですか、あなたのピアノ。**

IAPBT(International Association of Piano Builders and Technicians)

19 **国際ピアノ製造技師調律師協会**
日本ピアノ調律師協会／関東支部 吉川満之

調律師が読む本

23 **「ピアノ調律師の工具カバン」失われた音を求めて**
アンジェロ・ファブリーニ著／ビエトロ・マリンコア構成・文／酒井陽子訳／音楽之友社出版
日本ピアノ調律師協会／関東支部 高田利根夫

ピアノのはなし その5

26 **ピアノにまつわる都市伝説**



本誌及びバックナンバーは(一社)日本ピアノ調律師協会のホームページからご覧いただけます。

日本ピアノ調律師協会

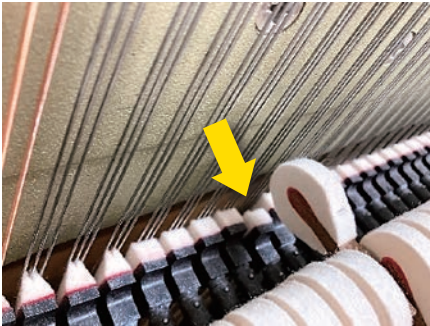
スマホの場合は
右記のコードを
読み取ってくだ
さい。



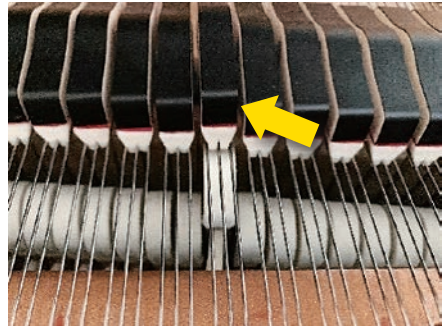
端までが長いため、小さな動きでも大きな働きが得られます。また、鍵盤が長いほど鍵盤の奥を押した時と手前を押した時のタッチ感に差が出てくく、より自然に演奏ができるようになります。

ダンパーの止音効果はどう違う？

アップライトピアノのダンパーは、ハンマーが弦を叩くのと同じ方向から弦を押さえ、しかもハンマーの打弦点から離れている部分を押さえるため、止音効果は弱めです。グランドピアノのダンパーはハンマーが弦を叩くのと反対方向から弦を押さえ、打弦点に近い部分を押さえるため、止音効果が高くなります。またアップライトピアノはバネの力を使うのに対し、グランドピアノは上から下へ、ダンパーの重みで押さえるため、より自然なタッチで演奏できます。



アップライトピアノのダンパー



グランドピアノのダンパー

ペダルの効果はどう違う？

左側のソフトペダルは、演奏中曲のイメージに合わせて音量や音色を変化させる時に使用します。アップライトピアノはハンマールールを動かし、ハンマーと弦との距離を狭めて打弦します。グランドピアノは鍵盤全体を右側にシフトさせ、打弦を3本から2本にし、更にハンマーの柔らかい部分で打弦させることにより、大きく音色を変化させることができます。

中央のペダルはアップライトとグランドでは全く違う働きをします。アップライトピアノ（マフラーペダル）は、ペダルを踏むと弦とハンマーとの間に薄いフェルトが入り音量を下げる効果があります。グランドピアノ（ソステナートペダル）は特定の鍵盤を押しながら踏むと、その音だけ持続して響かせることができます。

右側のダンパーペダル（ラウドペダル）は、踏んだ瞬間に全てのダンパーが弦から離れ響きが長く続きます。ダンパーの構造と動

きの違いにより、グランドピアノではハー
フペダルの効果がより有効に作用します。



ソフトペダルのしくみ
アップライトとグランドの違いを
動画で紹介しています。

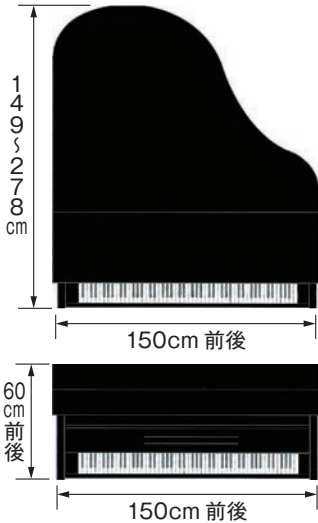
<https://youtube/vY1WdpGwX6I>

音の響きは どう違う？

アップライトピアノは、その箱のような
構造上音の出口が少なく、ケースを通過し
た「透過音」が多くなります。グランドピ
アノは屋根が大きく開くため、音を遮るもの
が小さく、「直接音」と「反射音」がほとんど。
ピアノ全体が共鳴体と言えます。細かい音
色の変化も聞き取れ、繊細な表現も迫力
のある表現も楽しむことができます。

ピアノの大きさは？

平型のグランドピアノを縦型にしたの
がアップライトピアノです。メーカーや機
種によって若干差はありますが、間口(横幅)
はアップライトピアノもグランドピアノも
およそ150cm前後です。高さはアップラ
イトピアノで120cm前後、グランドピ
アノは100cm前後です。奥行はアップライ
トピアノが60cm前後なのに対し、グランド
ピアノは149cm〜278cmで長くなり、
また機種により大きな差があります。



国内販売台数の比率は？

2022年度の国内販売台数は、アップ
ライトピアノが10138台、グランドピ
アノが3349台です。(静岡県楽器製造
協会調べ)約75%がアップライトピアノで
す。コンサートやコンクールでは、ほとん
どの場合グランドピアノが使われます。学
校の音楽室や音楽大学のレッスン室、また
最近では音楽教室のレッスンでもグランド
ピアノを使う先生が増えてきましたが、レ
ッスンを始めたばかりのお子様や、趣味と
しての楽しみに、手頃で親しみやすいア
ップライトピアノに人気があるようです。
現在でも世界中のピアノメーカーが魅
力的な商品開発に力を注いでいます。最近で
は電子ピアノの需要も増えてきていますが、
300年以上の歴史を持ち、世界中で愛さ
れている電気を使用しないアコースティッ
クピアノには、それなりの大きな魅力があ
ります。

創造性溢れるピアノ開発に寄せて

ピアニスト

川口成彦



Profile

第1回ショパン国際ピリオド楽器コンクール第2位、ブルージュ国際古楽コンクール最高位。フィレンツェ五月音楽祭、「ショパンと彼のヨーロッパ」(ワルシャワ)などの音楽祭に出演。協奏曲では18世紀オーケストラなどと共演。東京藝術大学/アムステルダム音楽院の古楽科修士課程修了。第46回日本ショパン協会賞、第31回日本製鉄音楽賞 フレッシュアーティスト賞受賞。CDは自主レーベルMUSISICによる『ゴヤの生きたスペインより』(レコード芸術&朝日新聞特選盤)など。

私は2022年の1月からクリス・マーネが製作した1795年頃のワルターの復元楽器を都内の居住先にて所有しています。ベルギーのとある演奏家から中古で引き継いだその楽器によって、フォルテピアノ奏者としての鍛錬の日々は大変充実したものになっていきます。18世紀や19世紀のピアノは現代のものとは基本的にタッチも大きく異なるので、細かなニュアンスにこだわって楽器を弾きこなすためには特別な演奏技術が

必要です。鍵盤を下ろせば音が鳴るので、モダンピアノが弾ければフォルテピアノも弾くことは出来るのですが、繊細なニュアンスと共に表現にこだわるとなると話は別です。自分の楽器でそれを毎日研究出来るということはやはりプロの演奏家として絶対必要なことであると楽器を所有してからなおさら痛感しました。だから私はそのワルターとのご縁に感謝でいっぱいです。

その楽器を製作したマーネはベルギーを代表する歴史的ピアノの復元家および修復家で、大きな工場と従業員を携えた会社として「Cris Maene」を展開し、古楽器のみならずモダンピアノの世界でも存在感を示しています。私はCDや演奏会で色々とお世話になってきましたが、自分の人生のパートナーとなるマイ楽器によってマーネにさらに親近感を感じています。

マーネが近年大きく話題になった事の一つとして2015年にバレンボイムとスタインウェイ社との共同製作で平行弦のモ

ダンピアノを製作したことがあり、それ以降Cris Maeneは自身の会社名を掲げて平行弦のモダンピアノを引き続き製造しています。平行弦は18世紀や19世紀のピアノに見られる特徴の一つで、このモダンピアノでは歴史の中のアイデアの再導入が試みられました。最近ではアムステルダムコンサートホウでキリル・ゲルシュタインがその楽器を使用したり、様々な演奏家によって幅広く使われています。

Cris Maeneは2022年には演奏者と各キーの距離感が少しでも縮まるように鍵盤が設計されたピアノ the Maene-Viňoly Concert Grandも開発しました。これは建築家ラファエル・ヴィニオリとの共同開発で、19世紀の楽器に見られたアイデアの再導入です。これは私自身も試弾してみました。予想外の弾き心地の良さにびっくりでした。ピアノという楽器に関するマーネの見識の深さが現代の最新の楽器に結びついていることが本当に面白いです。

Cris Maeneは社長自身が歩んだ歴史的

ピアノの探究を現代ピアノの製造に活かし、懐古主義的な発想で今日においてはアブノーマルで創造性のある楽器を生み出して来ていますが、次はどのようなピアノを開発するのかと今後目も離せません。



the Maene-Viňoly Concert Grand

私はたまたま自分がモダンピアノの会社の社員だったらピアノの未来をどのように

イメージするだろうか、と考えたりします。ピアノはメカニックな構造ゆえに時代ごとに常に新しいアイデアが取り入れられ、20世紀前半までクリエティブなピアノが沢山生まれました。しかし歴史を俯瞰すると度肝を抜くような革新的な新しいピアノ製造へのエネルギーは20世紀後半以降弱まっているのではないかと思います。均質美を追い求めたモダンピアノが行き着くところに落ち着き、ピアノという楽器のスタンダードが確立された印象を受けます。そんな現代において独創的なアイデア模索するとはやはり歴史的な楽器は大きなヒントになります。私自身も新しいモダンピアノを作ると古いピアノのアイデアからリユーストップを導入したり、ダンパー解放装置も低音域と高音域で分けたり、モデレーターを付けたりするかもしれません。またソウルのソ・サンジョン(서상경)さんが韓国の民族楽器カヤグムからインスピレーションを得て作ったというピアッゴ(피앗고)も興味深く、民族楽器というアイデアの宝庫

から新しいピアノ製作を試みた近年の良い例です。新しい文化を発信出来る革新的なピアノを創造することにはロマンがあります。それがお金になるかはもちろん別問題ですが…。

ところで20世紀前半こそ実にロマン溢れる時代でした。その代表例が四分音ピアノや2段鍵盤のエマニュエル・モール式ピアノです。モール式ピアノはラヴェルが絶賛した楽器で、片手で2オクターブを支配出来たり、半音階グリッサンドも出来る革新的なピアノでしたが第二次世界大戦以降作られなくなります。しかし近年その楽器がドイツのフロリアン・ウーリヒによって再注目され、今年の9月27日にハンブルクで彼はモール式ピアノで演奏会を行います。戦前の遺産を21世紀に大きく蘇らせる彼のプロジェクトは今後も目が離せません。モール式ピアノこそ今日のピアノ会社が再び製造してくれたら今後の音楽文化の新しい扉が開くであろう楽器の一つだと私は思っ



エマニュエル・モール式ピアノ

ています。モール式ピアノは主にプレイヤー、スタインウェイ、ベーゼンドルファーによって合計約60台だけ製造されたピアノで、現代ではどこの会社も製造していません。ですから今日新しくリバイバルされたら多くのピアノリストが興味を持ってくれるのではないかと思います。

寄稿

日本製ピアノの歴史

(株)河合楽器製作所 SKピアノ研究所
三浦広彦

明治維新の流れに乗った 山葉オルガン

約三百年前にイタリアで誕生した(現代のものよりも)華奢な構造のピアノは、その後社会における音楽の位置付けや工業技術の変化によって、日本の時代で申しますと幕末の頃、現在のような鉄骨フレームや八十八の鍵盤、そして幅広い表現力を備え、大きな会場にも響き渡るような力強く頑丈な楽器としてその基本構造が完成しました。日本では明治時代に入り、欧米の文化を取り入れようとする新政府の方針によって西洋音楽が浸透していきます。そのような明治の中頃、医療機器のメンテナンスの仕事で浜松の病院に雇われていた和歌山出身の

山羽やまは(後に山葉やまは)寅楠うまが学校のオルガンの修理と複製に成功したことが、今日遠州地方が世界的な一大ピアノ生産地として君臨する出発点となっています。

武士の家に生まれた寅楠は当時の文部官僚で東京藝術大学の初代学長となる伊澤修二との人脈を築き、(日本での西洋音楽の普及をライフワークにしていた)伊澤から託された教科書の『学校販売』ルートにのって山葉オルガンは順調に販売され会社は急成長しました。しかし、浜松製のピアノを完成させるまでにはそれから十三年の歳月を要します。寅楠は技術面においては優秀な弟子たち、中でも山葉直吉、河合小市といった愛弟子を信頼して実務を任せ、自身は経営の多角化に邁進しました。そし



山葉寅楠(右 1851 和歌山-1916)と河合小市(左 1886 浜松-1955)
二人の出会いには1896年、寅楠45歳、小市10歳の時。ここから始まった師弟関係は終生深い愛情と敬意に包まれたものであった。

て明治三十三年に浜松産のピアノがついに完成します。しかし、この時点ではまだすべての部品が日本製であったわけではなく、最後まで課題として残っていた打弦機構の開発には河合小市の活躍が大きく貢献しました。『軍大工』河合谷吉の長男小市は独学で材料調達からピアノの設計、製造技術、調律、そして演奏まで修得した、真のピアノ技術者です。谷吉は大八車作りの名人として知られ車輪や軸が円滑に動作することやその耐久性からとても評判になっていました。その息子小市が開発したピアノのアクション部品も細かい各関節部分が円滑に動き続けることが重要な点、お父様の仕事ととても似ていますね。

カワイブランドの誕生

寅楠亡き後も寅楠路線を継承した二代目天野千代丸社長の下、大正時代の日本楽器(ヤマハ)のピアノ製造の中核にいた小市でしたが、昭和に入った頃、日本楽器は労

働問題で大変な危機に見舞われます。経営陣が変わり、寅楠一門の社内での立場も微妙なものとなる中、天野が辞任したこと、会社のゴタゴタには関わりたくない小市は、会社経営に関して野心を持っていた訳ではないのですが、師匠と作り上げた純和風のピアノ作りを傳承すべく会社独立の道を選択し河合楽器製作所が誕生します。

戦後のピアノブーム

時代は進んで太平洋戦争後、日本の教育方針が再び変わります。それまでの日本の学校教育での音楽は歌唱が中心でしたが、器楽演奏の必要性が論じられ、何と「鍵盤楽器が弾けるように」と学習指導要領に明記されてしまいました。このことは小学校の教員、そして幼い子供を持つ若い親世代に良くも悪くも様々な影響を及ぼし、昭和



山葉家の墓

寅楠はオルガン事業を親身になって応援してくれた浜松病院院長福島豊策を一生の恩人と崇め、豊策の死後、豊策の墓と自身の墓を同じ墓地に建立しました。また小市は藍綬褒章授与式からの帰路、浜松駅から河合楽器本社ではなく、師匠寅楠への報告を優先させ、ここに直行しています。

三十年代から五十年代における空前のピアノブームを励起させることになりました。この時代、ヤマハ、カワイ、ディアパソン、アポロ、アトラス等々、多くの日本のピアノブランドが乱立し、にわかピアノ業者もたくさん登場しました。しかし、一時的なブームの後はその反動も大きく、所謂『団塊ジュニア』世代が就学期を迎えた1980年に日本国内のピアノ販売数は極端なピークを残し、そのブームは去りました。普通、このような極端な市場動向があれば、その産業は衰退の一途をたどるものですが、この間に大量の安定した品質の日本製ピアノを世界に送り出していたヤマハやカワイは西洋音楽の本場からも高い評価を受ける等、『地力』をつけていました。今日では生産の量的な面では中国などに圧倒される時代となりましたが、欧米の伝統あるブランドとともに日本のピアノも世界の舞台で活躍するようになっていきます。余談ではありますが、日本のピアノブームのお陰で日本ならではの丁寧で確実な方法によってピアノの

大量生産を成し得た結果、それを実現していく工夫の中で定着した「ピアノは黒いもの」という日本の常識を世界の標準にもしました。

和魂洋才、 日本の黒いピアノ世界へ

現代のピアノ製造は木をはじめ、金属、繊維、合成樹脂など様々な素材を駆使し、その製造工程は実に複雑なものであり、簡単に新規参入できるような世界ではありません。そして外觀が完成しても調律師による調整作業で全体のバランスを整えなければ音楽表現の道具としては機能しません。この奥深い産業の発展に命を捧げた先人達の想いを作り手も弾き手も日本人として大切にしていきたいものだと思います。前述しました山葉寅楠、山葉直吉、河合小市はもとより、ディアパソンピアノを生んだ大橋幡岩、音楽家の育成に尽力したヤマハ4代目社長長川上源一、製造会社が製造から販

売、アフターサービスまで自社で行う体制を確立した河合楽器製作所2代目社長河合滋など、いずれも『和魂洋才』の精神を貫いた偉人達の志を未来に繋いでいきたいと思っています。



歴史的ピアノ探訪

その5

伊東基貴

(日本ピアノ調律師協会／中部支部)



プレイエルピアノに縁のある人たちもやってきた

今回取り上げるピアノは、長野県須坂市の須坂東中学校にある、1924年に製造されたフランス「PLEYEL(プレイエル)社」のグランドピアノ「Job(トワロビス)」というモデルです。昨年(2022年)10月2日の、須坂東中学校文化祭体育館での修復披露演奏会は、多くの校外観客も交えて盛況に開催されました。学校創立時の昭和33年(1958年)にプレイエルピアノが、市民の篤志家であった山岸右京氏から寄贈され、長く現在まで校舎内に所蔵されています。しかし、残念なことにその状態は、いつからか校舎の階段下にこっそり置かれているもの

の、誰からも見向きもされず、弦がズタズタに切れ、象牙の鍵盤はかなりの数剥がれているという悲惨な状態だったそうです。

昨年まで東中学の校長を務められた島田浩幸さんは、「全校総合学習の一環として、学校創立以来65年間、東中学校の生徒を見守り続け、間もなく100歳を迎えるビンテージピアノにもう一度『命を吹き込む』ことができないだろうか」という問いを、校長講話で全校生に語りかけました。それ





キーパーソンのお二人

に呼応する生徒会のプロジェクトが昨年4月にはじまります。そこには、予想を遥かに超える熱い思いがみなぎっていたと、島田さんは振り返ります。

ブレイエルピアノのことを調べると、シヨパンとの関係性などいろいろ知ることができ、多くの生徒から「ピアノの音色をもう一度聴きたい」、「修理できるのならしたい」という声があがります。そこで修復を業者任せにするだけでなく、全校生徒の総合学習として取り組めないかという方針が立てられます。そんな画期的な方法を、



文化祭の様様

長野市在住で日本ピアノ調律師協会会員の米山宏貴さんに打診がなされ、米山さんは困惑しつつも受諾。そこから、個人的に表面には出ないことを条件に、米山さんの悪戦苦闘が学校挙げての展開としてはじまります。



演奏がこれから始まる

普通、調律師はピアノのメカニズムを説明はしますが、その調整は専門家である我々に任せてほしいということが一般的です。それを、中学生の生徒の皆さんと一緒に、しかも100年経過しているビンテージピアノであり、状態は極めて良くないにも

かわからず共同作業をおこなう。さらに話を聞けば10月の文化祭で修復のお披露目、ついでには長野県出身ピアノリストで、第15回シヨパン国際ピアノコンクール4位入賞された山本貴志さんに演奏のお願い構想もあるとのこと。

そこから半年後の10月を目指し、ピアノ本体の修復もさることながら、生徒の皆さん手分けによる、地域の方たちへの涉外とPRによるプレゼン活動や、修理費用の募金に企業訪問とかがおこなわれます。分担された各グループ活動は、「分解・清掃」演奏会・クイズ「動画撮影」リメイク「CM作り」「チラシ作成」涉外「農業」「BGM」「パンフレット」「企業訪問・募金」と多彩でした。

ちよつと例えはちがうかもしれませんが、校長先生の島田さん脚本に、調律師の米山さん演出、音楽をピアノリストの山本さんがそれぞれ担った、生徒全員主役の演劇が繰り返り広げられていたような感じだったのではないかと、思わされてしまいます。先だって、



寄贈者の銘

島田さんと米山さんにゆっくりお話しを聞く機会がありました。このお二人の出会いこそが、今回のすなわち中学生全校参加型の修復ドラマ実現に結び付いたのではないかと、にこやかに語り合っていた姿がとても印象的でした。



オリジナルを忠実に残す

その後、こうして「命を吹き込まれた」ブレイエルピアノは、卒業式や校内演奏会などで須坂東中学校のシンボリックな響きを奏でているとのことでした。

4 各グループの活動

分類・選別
PIEVELのピアノを修理する前に一度分類し、修理を依頼しました。

チラシ作成
地域、企業の方に配布するチラシを作成しました。

演奏会の企画・準備・運営
PIEVELのライブを行いました。

海外
報道関係へのプレスリリース作成と、ピアノ会場にあるフランス語の解説をしました。

新聞撮影
PIEVELの情報を色々な人に広めるために動画を撮影しました。

風景
修理作業を始めるために、花や野菜を育て、販売しました。

リメイク
いらぬ布を回収し、ランチランマット、コースター、コースターを作りました。

BGM
PIEVELのピアノで演奏した曲で放送用のBGMを作りました。

CM作り
地域の人に向けCMを作り、ケーブルテレビで放送しました。

パンフレット
PIEVELのピアノに関する活動の記録をパンフレットにまとめました。

企業訪問・募金 PIEVELの修理費用に際から寄付をお願いするために企業訪問をしました。



5 命を吹き込む



文化祭パンフレット 「命を吹き込むーBreathing lifeー」より

文化祭パンフレット 「命を吹き込むーBreathing lifeー」より

6 演奏会について

総合的な学習の時間のテーマ「PIEVELのピアノに命を吹き込む」を考えていく中で、ピアノを修理するだけでなく、その音色を大勢の人に聴いてもらうことがよいことだという意見が多く出ました。

PIEVELのピアノは、ショパンが愛用していたことで有名な。そのことからショパンに縁のある方で、長野市出身の山本貴志さんにぜひ来てもらおうと考えました。その結果、「第45回楽祭」で次のような演奏会が実現しました。

プロフィール

長野市出身のピアニスト。5年に一度、オランダのフリスワフで開催される「ショパン国際ピアノコンクール」は、音楽コンクールの中で最も難関と見られるピアニストの登竜門とされます。山本貴志さんは、2005年第13回大会で「世界第4位」となりました。



出演者

山本貴志さん
<http://takashi-yamamoto.com/top.html>

期日

10月2日(日)

内容

会場からのインタビューを交えながら、山本貴志さんにピアノ演奏していただく予定です。

文化祭パンフレット 「命を吹き込むーBreathing lifeー」より

あいち国際
女性映画祭
海外招待作品

ピアノの魂



映画「ピアノの魂」は、あいち国際女性映画祭2023において海外招待作品として、9月16日に名古屋シティミッドランドスクエアシネマ2の会場で上映されました。

ピアノの魂

9月16日(土) 18時30分 ミッドランドスクエアシネマ2

- 英題：THE SOUL OF A PIANO
- ジャンル：ドキュメンタリー
- ポーランド／2022年／60分
- 監督：ジュディス・フィビゲル
- 協力：一般社団法人
日本ピアノ調律師協会
- 日本初公開
- 2022 Krakow フィルム
フェスティバル出品

あらすじ

ピアノに魂は宿るのか？

もしそうなら、それは何なのだろう？

とらえどころのないものなのか？

それともその魂はピアノの製作者なのだろうか？

1912年にカリシユで生まれたグスタフ・アーノルト・フィビゲル三世は、過酷な歴史に翻弄されながら、家業のピアノ製造とポーランドのピアノ技術者を生涯かけて育てた。教え子達が語る感動の物語。

ARNOLD FIBIGER



ジュディス・フィビゲル監督よりメッセージを
いただきました。

I'm very honoured and proud that my film will be seen in this beautiful country at this very special film festival.

I believe that people in Japan truly understand and appreciate the idea of craftsmanship.

This film is an homage to my grandfather Gustaw Arnold Fibiger the 3rd- who was one of the greatest piano constructors of his time. The Arnold Fibiger piano factory doesn't exist anymore but the instruments are still here, very much alive. So will be a memory of a great man....

Thank you again.

Judyta

.....
(訳)

この特別な映画祭で、私の映画がこの美しい国で観られることをとても光栄に思い、誇りに思います。

日本の皆さんは、クラフトマンシップというものを本当に理解し、高く評価してくださると信じています。

この映画は、私の祖父グスタフ・アーノルド・フィビガー3世へのオマージュであり、彼は当時最も偉大なピアノ製作者のひとりでした。アーノルド・フィビガーのピアノ工場はもう存在しませんが、楽器はまだここにあり、とても生き生きとしています。偉大な人物の思い出として…。

ありがとうございました。

ジュディス



4月4日はピアノ調律の日

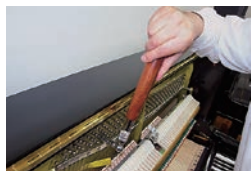
お元気ですか、あなたのピアノ。

2011年度よりピアノ調律職種に国家資格制度が
導入されています。

ピアノの調律は、厳正な技術審査を経て入会した
日本ピアノ調律師協会会員にお任せください。

日本ピアノ調律師協会は、わが国の音楽文化の発展に寄与
することを目的として、さまざまな事業を行っています。

- 1 ピアノ調律職種国家検定の指定試験機関として厚生労働省より指定され、試験の実施に当たっています。
- 2 4月4日の「ピアノ調律の日」をPRする記念行事として、全国の支部では地元出身の若い音楽家たちによる演奏会を積極的に企画し、次代を担う若手を応援しています。
- 3 「12歳のハローワーク」と題して、小学校の総合学習の時間にピアノ調律師の仕事やピアノの良さを紹介する授業を行っています。
- 4 歴史的なピアノの調査研究と修復活動を行っています。
- 5 新人向けの基礎研修や、ベテランの更なるレベルアップを目指す研修など、さまざまな研修を行っています。
- 6 国際活動を通じた技術交流を行っています。



国際ピアノ製造技師調律師協会

日本ピアノ調律師協会／関東支部 吉川 満之



この冊子を手にとった方はピアノマニア、音楽マニア、演奏者、ピアノ教師としてピアノ調律師の方々だと思います。

そんな皆さんの中で、世界中のピアノ調律師が2年に1度集まって会議、研修、コンサート、シンポジウム等を行っているのをご存知の方はいらっしゃるでしょうか？
この大会は1979年に第1回がアメリカのミネアポリス市でアメリ

カ調律師協会(PTG)と日本ピアノ調律師協会(JPTA)が中心となり発足しました。以来、今年のアメリカのワシントン近郊で行われた第23回まで加盟各国の主催で開催されてきました。

私はこの大会に17回参加してまいりましたが、最初は40年前の1983年の第3回の東京大会でした。旧赤坂プリンスホテルを会場にして各国の調律師が集合しました。当時の私は27歳で好奇心と元気に満ち溢れていて世界中、そして日本各地から集まった同業者とのふれあいは若い私にとって大変な刺激となりその後の人生に大きな影響を与えたと言っても過言ではないでしょう。



時代も業界においてもの生産台数は毎年増え続けていきましたが、販売するピアノが足りないくらいピアノが売れていました。日本経済においてもバブルに向けてまっしぐらという勢いですが輝いていたよ

うに見えた気がしました。

私はこの東京大会の後2年に1回の各国の大会にできるだけ参加してどの大会でも主催国の企画、運営、おもてなしに感動しました。それらのすべての体験を語るにはあまりにも多く難しいので今回第23回大会のシンポジウムについて書きたいと思います。

IAPBT本部からは3つのテーマが与えられました。

『テーマ①』

ピアノ調律師協会がピアノ調律師という存在を広めるために何をしているか？

当協会では約10年前に国に働きかけこの仕事に国家認定資格として認められるようにしました。

それは資格を1級2級3級と3段階に分けてレベルに応じて試験を行なっています。国家試験になったことでそれぞれの会員証、名刺、ホームページ等を持っている等

級を書いてお客様の信用を得ることになっていると思います。

さらに対外的には調律師ならではのコンサートの企画、運営をして協会の存在をアピールしています。

そして小、中、高等学校などに会員が出かけピアノに関するレクチャーを行なっています。ピアノの調律、構造を生徒たちに説明した後、プロのピアニストの演奏を披露しています。

このことにより生徒たちの中には我々の仕事に興味を持ちたりピアノ演奏をする子供たちは構造を知ることにより弾き方が変わり音色が良くなったと聞きます。

『テーマ②』

各国のピアノ事情はいかがでしょうか？

我が国においてはピアノを愛する人、演奏する人の数は増えていると思います。過去3年間のパндеミックや果ごもり生活やリモートワークで楽器を演奏する人が増え

その筆頭がピアノということらしいです。電子ピアノは生産が間に合わないくらい売れているそうです。

加えて駅や公共の場所に設置されたストリートピアノは愛好者が演奏の順番待ちの所もあります。

イギリスのBBCが製作した番組は日本でも人気があります。

2021年ワルシャワで行われたショパンコンクールではファイナリストの2位と6位の2人がカワイを選びました。2010年では優勝者がヤマハを選びました。このことは我々日本人調律師にとって大きな誇りです。そして反田恭平さんに続く若くてかっこいいピアニストが多数いて彼らのコンサートチケットは入手困難な状況です。その上我が国の代表的なサブカルチャー(マンガ、アニメ)にもピアノやクラシック音楽を題材にした作品も多くあり人気があります。いつか鬼滅の刃のように皆様の国でも観られるようになると思います。

『テーマ③』

若いピアノ調律師を育てるにはどうしたら良いか？

日本ではピアノ調律師を目指す若者が減り、養成機関も縮小したり閉鎖する所もあります。

ではこの状況を変えるにはどうしたら良いでしょうか。

残念ながら大谷翔平選手の逆転ホームランのような形勢を変える秘策はありません。我々はどうやってこの仕事を選んだのでしょうか？

若い人が社会に出て職業を選ぶ時にその収入が大きなウエイトを占めているのではないのでしょうか。今は検索エンジンで調律師の平均年収を調べれば魅力的な答えは出きません。

しかし、今の若い世代、ミレニアル世代、Z世代とも言うのでしょうか、彼らは収入よりも気の合った仲間や家族と過ごす傾向にあるようです。





この仕事で高収入を得るのは大変ですが、私は19歳の時から約50年調律師を続けてきました。

その間にはもちろん辛いこと、嫌なこともたくさんありました。でも辞めようと思っただけは一度もありません。音楽が好き、人が好き、旅が大好きな私にとってとても魅力的なことでした。

皆さんはこの仕事の良さを人に伝える時、どんなことをお話ししますか。私はピアノ

という楽器はいつたどのような場所に設置してあるでしょうか、と尋ねます。まず一般家庭、幼稚園から大学までの教育機関、病院、老人ホーム、葬儀場、まさにゆりかごから墓場まで、私たちが一生のうちで必ずお世話になる場所にピアノは置かれています。これらの場所を訪問すると、今まで来た道、これから行く道のことを考えます。それからコンサートホール、ライブハウス、レコーディングスタジオ、テレビ局、五つ星ホテル、三つ星レストラン、大型クルーズ船、大きな国際イベント、オリンピックやW杯のセレモニーでも使われていましたね。そして皇居の中にもピアノがあり、私の先輩は皇室の調律を担当しています。外国で働くことも難しいことはありません。

この仕事に就いていなければ行けなかった場所、また会えなかったであろう素敵な人々との出会いは私の人生のハイライトのひとつです。

もちろん調律師の中では外回りをするよ

りも工房でじっくり修理、修復の仕事をする方が好きな人もたくさんいます。

調律師にはフリーランスで働いている限り定年がなく、80歳台でも元気で仕事をしている方々も少なくありません。91歳で重い工具を抱えて東京の交通機関を使いお客様の所へ訪問している大先輩もいます。

少しずつこの業界は縮小してますが、IT、AI技術が進歩してもこのアナログ仕事が無くなることはないでしょう。

1年でも長く仕事を続け1人でも多くの若い後輩を育てていきましょう。



IAPBT
(国際ピアノ製造技師調律師協会)

調律師が読む本

「ピアノ調律師の工具カバン」 失われた音を求めて



日本ピアノ調律師協会／関東支部 高田 利根夫

アンジェロ・ファブリーニ著
ピエトロ・マリンコア構成・文
酒井陽子訳 音楽之友社出版

ニューヨークの知人から、ファブリーニの本が出ているよ、と聞いて興味を持ちました。欧米ではホルルのピアノを使うより、コンサートサービスをする会社がレンタルをして、そのピアノでコンサートをする事が多いと聞いた事が有ったからです。現書はイタリア語なのですが、この度日本語訳が出たので、購入して読んでみました。

ピエトロ・マリンコアという弟子兼、経営に参加している人がファブリーニに代わって文章を書いていますから、本人の言葉だけでなく、客観的に描かれている部分もあります。プロローグから第12章までと、巻末にファブリーニへのインタビュが入

っています。

今は亡きミケランジェリ、ワイセンベルクその他、ポリリーニ、ツイメルマン、シフラ多くのピアノニスト達との豊富なエピソードが載っています。共通して感じたのはアーティスト(マエストロ)に徹底的に尽くす姿勢でした。あとピアノニストが冷房を切ってくれと言っていたのに冷房が入ったり、ライトを点けない様に言っていたのに点いたりと舞台やホールの人が勝手にやるのがヨーロッパ(イタリア)では有るのだなと思えました。演奏会でフラッシュユがたかれるのも勿論で、これは日本でもTVで見かけますが、ピアノニストが怒るのも無理ないです。演奏中に黒鍵が取れると言う記述が有りましたが、瞬間接着剤で応急処置が出来るんでしょうか?ソステヌートペダルの作動装置にかかっていたロックが開演前に解除されていなかったという所は、ファブリーニの運送梱包で有るのかも知れませんが、一般ではない様に思われます。新しいピアノと少し古いピアノを好むピアノニストがいる

そうです。以下、私が印象に残った所を列記します。

ファブリーニさんは、小さい時に、ベヒシュタインのコンサート・グラランドで聴いたアルフレッド・コルトーの生演奏がずっと頭の中から消えず、一時ブリュートナーの販売にも貢献した様です。お父さんのピアノ楽器店を継ぎ、楽器の技術サポート、修理、修復、販売、運送、調律師の人材育成と広げていき、主にスタインウェイのコンサートグラランドで構成されるファブリーニ・コレクションを作り、ピアノニスト達の演奏に心えてきたそうです。

2008年には、ドウエチエンテジモ(200台目記念版)と言うフルコンをスタインウェイが製作してくれたそうです。ポリリーニの為に、フルコンを30台購入したそうで、なんとスケールの大きい話です。またB2Cをこれは特別なロッドだと思いい、一度に10台買った事も有ったそうです、音楽家及び、調律師の名前は全て実名で出てきます。

ピアノ技術書ではないので、具体的なノウハウは殆ど出てこないですが、ポリシーや思いは読み取れるものがあります。調律を始める場合、5度や4度よりも3度の音程を重点的に作業する、共鳴はこれを引き立たせるのが良いか、無くすのが良いか選択する。高音はやや高めに取る事が出来る。B2CのB2Cまで指示される事がある。当日のピッチの変更は、演奏中にピアノの音が普段のものとは違ってしまい調律自体も不安定になる事が有るが、指示には従う。調律については、上手いか下手かでなく、美しいか美しくないかで話す方が良い。ファブリーニの仕事への取組は、主体がピアノの場合、楽器の個性と向き合い、楽器の持ち味を高めるべく絶え間なく作業をする。主体がピアノニストの場合、ピアノニストの芸術的個性と向き合い要求に沿って作業する。ピアノの音をいくつもの声と表現しており、それぞれの声に固有の音色を与えるのがピアノニスト。ファブリーニのピアノは、ピアノニシモからダイナミックなフォルテッシ

もまで網羅する透明感と重量感を併せ持つピアノの音、しなやかな軽さと力強い音を出せる楽器として知られている。ファブリーニの会社には、「誰にも真似のできない音のピアノ」と言うキャッチフレーズがあるが、それはピアニストの感性とピアノの特定の組合せによって、ますます誰にも真似のできない音になる事がある、と言う意味らしい。

「ピアノを手放したい」と言う電話を受けると、ピアノは友達であり、家族の宝物であり、その思い出の一部でもあるので、テレビや冷蔵庫と同じ様にできないものですと行って説得に当たるそうです。この本のタイトルは、愛読する1940年代のスコットランドの医師アーチボルト・ジョゼフ・クローニン「医者診察カバン」と言う小説にちなんでつけられた。

それぞれのピアノが、持つて生まれた素晴らしい特徴を維持する。ピアニストは近年ピアノの職人が手を入れるところが少なくなってきた均一化してきたので、こだわ

りの〈声〉を持つ楽器を見つけるのは難しくなってきた。楽器に本来備わっている素晴らしい特徴を引き立たせる事。

大変デリケートな構造のメカニズムからできているアクション調整を繰り返す。

声と音が調和した天国の様な音を出すピアノに出会い、その楽器が醸し出す女性の歌声や弦楽器の音は、レンブラントの絵の背後に描かれた影とイメージが重なる。理想のピアノ、名付けて〈レンブラント〉を求めて探し続けている。実際コレクションのピアノには画家の名前を付けているそう。ピアノの〈声〉、あるいは〈音色〉を描写する時に〈色彩〉と言う言葉が使われるのは偶然では有りません、と。その女性の歌声と弦楽器の音が調和したピアノの音は、過去に聴いたピアノを辿っても手に入らず、最近ではパリでベヒシュタインのコンサート・グランドでまた聴いたそうです。ピアノの個性とピアニストの個性が融合してその音は生まれるのでしょうか？

工具カバンを置き忘れたり、盗まれたり、

ごろつきに奪われそうになって、膝と肘に怪我をして今でも傷跡が残っていると、録音の時に携帯電話が鳴ってしまったともも有ったそう。私も気を付けなければ！

自分の知識を他人に分け与えるのは基本的な事で、寛大でなければできない。私が出来た事を見て、私が出来ない事を教えてくれる様にといつも言っている。いずれにしても、探究心は持ち続けたいと言う信念が私の強みだと思おうそうです。日本から派遣された調律師とはお互い学びを得る建設的な協力関係を築けたそうです。ファブリーニのピアノは、東京でのポリーニの演奏会で1〜2度見た「聴いた」事が有りますが、音としての印象は、特に感じられませんでした、と言うかその時はそこまで聴き分けられませんでした。

2024年には創立100周年になるので、100台のピアノでオーケストラの各パートを演奏してお祝いをしたいそうです。

ピアノにまつわる都市伝説

その1

動かしたら調律しなきゃ??



良く耳に言葉ですが、この場合の動かすは移動のことで、ピアノの環境が変わる、という事です。真夏のトラックの荷台は高温になり、鉄のピアノの弦は温度の変化で伸びてしまいます。逆に真冬は冷えて縮みますし、冷えたピアノを暖かい部屋に運ぶと鉄の部分の結露に繋がりますので、調律師に点検をもらうのが良いでしょう。

その2

雨の日の調律は大丈夫??

最近の家屋は外壁、壁の材質が良くなり、サッシもペアガラスで部屋の機密性が高くなっています。その上に各部屋にエアコンが設置しており、外気の影響をあまり受け

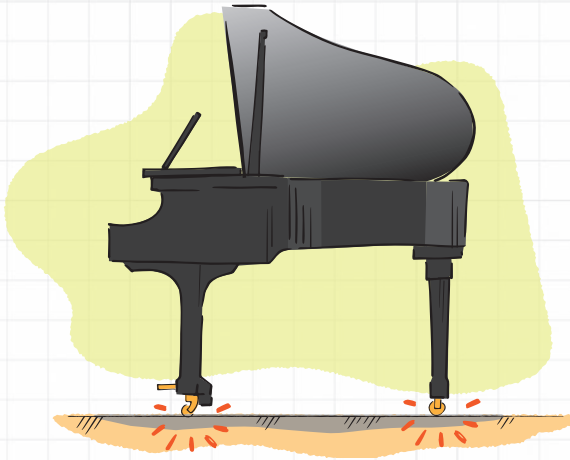
ない部屋がほとんどですので心配はありません。



その3

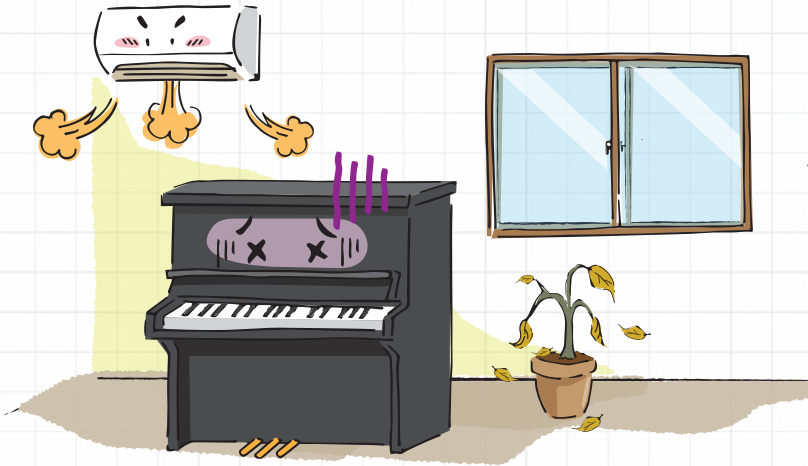
ピアノを置くのには補強が必要??

ピアノの重量は250キロ前後ですので大人の方が4〜5人立って沈まなければ大丈夫です。



その4

湿気は大敵??



もちろんピアノに湿気は大敵ですが、雨の日は大丈夫?で述べたように最近の家屋は逆に過乾燥の家屋が多く見受けられるようになりました。乾燥すると木は縮むので音が下がる原因になりますし、各種ネジの緩みで雑音に繋がる事も多いようです。

.....

外装・内部のサビなどで調律師がキチンとした対処方法を教えてくださいますので、調律師協会の調律師にお尋ねください。

上記の事は一般家庭の部屋のピアノの事ですので、音楽教室・ピアノホールとは異なることもあります。



アンティークピアノの魅力を伝えるために、本誌ではアンティークピアノの写真を解説付きに掲載。美しいピアノと共に過ごす12ヵ月はいかがですか？



日本ピアノ調律師協会 **オリジナル**

アンティークピアノカレンダー 販売中

貴重なアンティークピアノの写真を解説付きに掲載。
美しいピアノと共に過ごす12ヵ月はいかがですか？

JPTA2024年版カレンダー

- ・仕様: カラー 全26ページ コイル止め
 - ・サイズ: 269×190mm (ほぼB5) 裏表紙のみ 269×220mm
- 付属の封筒のまま定形外郵便物の
規格内料金で郵送できます。 **価格 1部 1,200円(税別)**



Amazonにて好評販売中!

JPTA2024カレンダーで検索、
または右記の二次元コードを
読み取ってください。▶



国家検定 ピアノ調律技能検定試験 指定試験機関



一般社団法人
日本ピアノ調律師協会

東京都千代田区外神田2-18-21 楽器会館5F
TEL 03-3255-3897 FAX 03-3255-9246
E-mail info@jpta.org <https://www.jpta.org/>

オトノトビラ

音の扉
vol.

令和5年11月30日発行

編集・発行 一般社団法人 日本ピアノ調律師協会
〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-18-21 楽器会館 5階
TEL.03-3255-3897 FAX.03-3255-9246 E-mail. info@jpta.org
表紙デザイン 清水敬祐 総務局参与 本文編集・イラスト 株式会社 按可社

編集後記

この原稿を書いている時、ワルシャワでは第2回ショパン国際ピリオド楽器コンクールが開催されています。若き才能溢れるピアニストたちが演奏する、作曲家が生きた時代の楽器の響きが、聴き慣れたモダンピアノとはひと味違った魅力と、ピアノの歴史・進化を感じさせてくれます。今回のオトノトビラはピアノのヒミツ!と題して、アップライトピアノとグランドピアノの構造の違いについて取り上げてみました。発行にあたりご協力をいただいた皆様へ感謝を申し上げます。このオトノトビラ6号が音楽を愛する多くの皆様のお手元に届き、ピアノの魅力と私たち調律師の事を知っていただければ幸いです。

広報局 岩倉康之

小さな振動からはじまる 大いなる未来への感動



一般社団法人 日本ピアノ調律師協会

Japan Piano Technicians Association

HP <https://www.jpta.org> Email info@jpta.org